



(前列左から) 松村さん、上杉さん、河合さん  
(後列左から) 鈴木さん、酒井さん、旭さん、北内さん

第28回福井県版画コンクールで、成器西小学校6年運動会グループが銅賞を受賞し、2月19日に福井新聞本社で表彰されました。このコンクールでは、県内274の小中学校などから約4万2千点の応募がありました。

同校では、6年生の思い出をテーマに版画を制作しました。坂川教諭が担任するクラスでは、連合音楽会、修学旅行、西の子音楽祭、西の子運動会をそれぞれモチーフに選び、児童らは、自分の希望する題材にそれぞれ分か

## みんなの気持ちを一つにして

成器西小学校6年運動会グループ

れ、7人ずつのグループで、共同版画制作に取り組みました。その中で西の子運動会の作品「パンザイ三唱」が受賞となりました。

作品は、縦1m20cm、横1mで、運動会のパンザイ三唱で縁台に立つ代表者を中心に、みんながパンザイする中、横の人に話しかけたり、ちよっかいをかける人も描き、単調になりがちな風景をユーモラスにまとめています。下絵は、メンバーそれぞれが持ち寄った絵の中から、リーダーの上杉さんの絵

を採用することに決め、板を9枚並べてリーダー自ら鉛筆で下絵を描き、その上からメンバーがマジックでなぞって彫りました。共同制作では、持ち寄り一つにしたとき継ぎ目が目立たないようにする点が難しく、彫る際には、彫刻刀や彫り方などをお互いに話し合

受賞した作品「パンザイ三唱」



なりました」と振り返ります。

7人のメンバーから勝山の印象について聞くと、「空気がおいしい」「左義長などの伝統文化が豊か」との声がありました。みんなそれぞれにうなずいてい

# 青春ing

## クロカンスキーに全力で挑む

宇田峻也さん(16) 元町2丁目 石井佑璃さん(17) 栄町1丁目



勝山高等学校の宇田さんと石井さんは、福井県高等学校スキー大会で優勝し、全国高等学校スキー大会に出場しました。2人の出場種目は、スキーの距離競技であるクロスカントリスキーで、マラソンと同様に持久力が必要な競技のため、冬場は、雁が原の斜面を上り下りで3往復(約9km程)もするそうです。

二人の今後の課題は、シーズンオフにローラースキーを履き、押しのパワーアップとストックワークのレベルを磨くことです。

2人にとってクロカンの魅力は、

「大会遠征で、知らない人とスキーの話などで仲良くなれた」(宇田さん)、「合宿で友だちと話したり、遊んだりして楽しい思い出がいっぱいできた。自分との闘いがおもしろい」(石井さん)とのこと。ただ、石井さんは「もった、クロカンのことを多くの人に知って楽しんでほしい」と思っています。2人とも、「勝山は、自然が豊かで、いろいろなスポーツが楽しめる所」と、口をそろえて、生まれ住む喜びを感じている様子でした。

## 健康を第一に、生きる喜びをかみしめる

加藤 健 一さん(68) 荒土町伊波

善行実践活動の普及と善行精神を高めようと活動する社団法人日本善行会は、世のため人のために善行を行ってきた個人や団体を把握するために、各県に善行調査員を置いています。福井県には調査員が3〜4名配置され、加藤さんはその1人として、善行者の推薦をするため善行調査に東奔西走されています。

長寿善行者は、皇太子殿下とのご接見もできるなど、日本善行会表彰は、その品位と格式や社会的評価が高いとされています。

加藤さんは、昭和44年から勝山市青少年愛護センター補導員、昭和47年から交通指導員を長年勤められ、

平成2年に善行賞を受賞されました。これがかきつかけで調査員に推薦され、先輩から「若い間に人の世話をし、人からの要請を受け止めることは、自分の成長に繋がる」と励まされて活動を始めました。

加藤さんが調査員を始めてからも、勝山から松井誠一さん(平泉寺町)、田中智章さん(北郷町)、久保金喜さん(本町4)、成器南小3年3組と中部中学校が受賞されました。

加藤さんは、「人のために尽くすことの素晴らしさを知り、実践に移す人が増え、世の中が明るくなることを望みます」と熱く語りました。

## すてきに人生



を採用することに決め、板を9枚並べてリーダー自ら鉛筆で下絵を描き、その上からメンバーがマジックでなぞって彫りました。共同制作では、持ち寄り一つにしたとき継ぎ目が目立たないようにする点が難しく、彫る際には、彫刻刀や彫り方などをお互いに話し合

なりました」と振り返ります。

7人のメンバーから勝山の印象について聞くと、「空気がおいしい」「左義長などの伝統文化が豊か」との声がありました。みんなそれぞれにうなずいてい

## がんばれ元気



## 踊りの練習厳しいけど、楽しい

山口 瑞貴さん(7)・由華さん(6)

=鹿谷町矢戸口=

昨年の鹿谷町文化祭で披露された宗生流剣詩舞道会による吟舞のすばらしさに、当日、進行役を務めたお父さんが感銘を受けたのをきっかけに、山口さん姉妹は、吟舞を習い始めました。

宗家中嶋宗聖の意思を受け継ぎ、吟舞を通じて青少年育成に力を入れている富田優聖先生の指導のもと、優雅で凛々しい舞の練習に励むとともに、あいさつや礼儀作法の厳しい指導も受けてきました。

瑞貴さんは、「吟舞を習うようになり、人前に出てもあがらず、積極的にになりました。」とのこと。姉妹は、文化祭で、同舞道会の北郷少年部からの応援を受けて見事な舞いを披露し、訪れた人々の目を愉しませました。山口さん姉妹は、吟舞の他にスイミングも習っていて、「一緒に踊れる友だちが欲しい」と2人は口をそろえて答えてくれました。